

故 江藤澄哉 先生の思い出

飄

々

広報委員

石田 健

江藤先生（下関市 医療法人社団慈光会江藤内科クリニック院長、平成 28 年 11 月 1 日ご逝去）が突然亡くなられて、数年が過ぎました。楽しかった思い出が次々に浮かびます。

先生と初めてお会いしたのは、昭和 50 年の 6 月のことでした。この年から、山大第二内科の医局員として、江藤病院（当時）の土曜日の当直を月 1 回することになりました。一番嬉しかったのは、車のガソリンを満タンにしてもらえらることとワックスをかけてもらえることでした。

医局員の中で誰が一番多くガソリンを入れたかを競争していると、ガソリンスタンドの手前でガス欠になり、車が動かなくなるということがありました。電話して、何とかガソリン 1L を車まで持ってきて貰うと「いくらなんでも、ガス欠になるまで空にすることはないでしょう。」と店員さんに言われたことを思い出します。

江藤クリニックは、先生の専門とする糖尿病や甲状腺の患者さんが紹介されて数多く通院される診療所でした。高血圧のみで通院されている近所の方で、数年すると HbA1c が異常値になる方がおられました。DM の早期発見、早期治療開始です。DPP4 の常用量の 4 分の 1 量の内服で満足できる結果が出ました。しかし、SGLT2 は副作用が気になり、処方を見合わせていました。

6 年前のことです。江藤クリニックの診察室で、健康の大切さ、ありがたさ、命の大切さを私が患者さんに話している時に、鶇が診察室のすぐ前の庭木に飛んで来て、蛙を小枝に刺しているではあ

りませんか！！「命の大切さを話している時に、何ということをする鶇だ」と鶇に対して私は怒りを覚えたことがありました。鶇にすれば生きるための当然のことをしていただけたと思い直して一句。

診察の 窓から見える 鶇の贅

数日後の昼休みに、診療所の傍の川沿いを歩いていくと、田圃でコンバインが活躍し、稲刈りをしていました。コンバインは稲藁を細かく刻んだり、長いまま束ねてもあります。

コンバイン 稲藁のこす ことも出来

蓋井島の患者さんが風邪で受診された時に、島の自慢の心太を差し入れてくれました。

夏風邪の 足が腫れると 漁師言ふ

診察の あとの楽しみ 心太

2012 年 2 月 11 日、江藤クリニックの傍の橋の擬宝珠に、金の鷹ならぬ美しい翡翠が止まっていた。

擬宝珠に 翡翠とまる 紀元節

東大野球部の剛速球投手だった江藤先生へ
剛球の 神宮の蟬 黙らせる

通算で約 30 年間にわたり本当にお世話になりました。江藤先生、ありがとうございました。